

啓発事業テーマ

薬剤師の OTC 医薬品による軽医療介入のためのケースメソッドによる研修会

上田薬剤師会

1、実施目的

オーストラリア、ニュージーランドの薬学教育においては、薬局店舗での軽医療介入に関わる知識をもとに、薬剤師が患者とのコミュニケーションを通して消費者の症状等を聴取し、OTC 医薬品による軽医療への介入（コンサルテーション）、医師への紹介などの意思決定ができるスキルを身につける教育が行われている。教育プログラムの中で、特に重視されており、注目すべきが、コミュニケーションスキル向上のためのケースメソッドによる教育である。

本事業においては、ニュージーランドおよびオーストラリアの薬剤師が来日した機会により、薬剤師の OTC 供給のスキル向上とともに、大学教育内容の向上を目指した上田薬剤師会において講演会とワークショップを開催した。

2、実施方法及び内容

(1) ニュージーランド災害医療講演会

医療薬学会シンポジウム参加のため来日した機会に災害医療に関する講演会を開催した。

- ・講師：ニュージーランド国防省防衛保険部長 Jane Dawson
- ・開催日時：平成23年10月3日
- ・場所：上田薬剤師会館

(2) オーストラリアケースメソッド講習会

シドニー大学およびオーストラリア薬剤師会で用いられているケースメソッド、ロールプレイングを主体とした教育プログラムで用いられる資料を用い、上田薬剤師会会員を対象に独自のワークショップおよびセミナーを開催した。

- ・講師：大学教員、オーストラリアWS経験薬剤師
- ・開催日時：平成23年11月27日、平成24年2月26日、3月27日
- ・場所：上田薬剤師会館、健康プラザ

3、成果

(1) ニュージーランド災害医療講演会

テーマ：災害時の薬剤師の役割

平成21年2月のニュージーランドに震災と同年3月11日の東日本大震災のそれぞれにおける薬剤師の取り組みについて経験交流を行うとともに、今後の取り組みの方向性について議論を行った。

①上田薬剤師会の東日本大震災支援活動報告

上田市より物資調達の依頼があり、3月18日・24日発の2便に分け支援物資が宮城県塩竈市へ届けられた。配送できる量が限られていたため、寒さ対策として、使い捨てカイロを中心に品目を限定し募集を行った。上田薬剤師会からは以下の支援物資が届けられた事が報告された。

- ・ 使い捨てカイロ 大、小
- ・ 子供用おしりふき
- ・ 子供用おむつ
- ・ おしりふき
- ・ 大人用尿取りパット
- ・ BOXティッシュ
- ・ マスク 大、小
- ・ 消毒液

②日本医師会災害医療チーム（JMAT）への参加について

小県医師会JMATへの参加協力依頼があり、3/29～5/15の間に、6班7名の薬剤師が参加した。派遣先は岩手県上閉伊群大槌町大槌高校。移動を含め1班あたり6日間の活動。うち医療活動は4日間行った。

限られた救援物資の医薬品の中で処方しなければいけない医師のサポートを薬剤師が代替えとなる医薬品を提案し用法用量を症状などから検討し、新しい処方提案などに関与した。また、支援物資の中にはOTC医薬品も多数あり、医療用医薬品で不足していたものを代用できる場合も多くあり、医療用医薬品だけではなく、OTC医薬品の提供することで軽医療の部分で多くの貢献ができたことが報告された。

③ニュージーランドクライストチャーチの経験

ニュージーランド国防省防衛保険部長 Jane Dawson氏から、被害概要と対応について講演があった。講演内容は、以下の通り。

20 薬局が深刻な被害を受け、営業不能となった。また、医薬品卸は壊滅、大量の

移送患者が発生し、記録は喪失など、多くの被害があった。地震直後から災害時の特別な対応は、被災してからわずかな時間内での国とN.Z. 薬剤師会決定した。その後、80%の下水処理能力と水道供給能力が被害を受けたが、約7日間でその約80%は復旧。南側の島の薬剤供給拠点が被害を受けたため、薬剤師会は処方日数をリピート調剤に限って7日間とし、重症患者などはクライストチャーチの外へ移送。50 ある薬局のうち20 件も被害を受けたが、臨時的にガレージなどで薬局業務を行う許可も出した。

これらの対応も含め、以下の教訓があったと考えられる。すなわち、薬局・地域・国家それぞれによる制度や環境、設備と薬剤師の日々の教育が重要であること、また、薬局は、「薬局計画」の確認、安全管理 / 危機管理 の確認、避難方法 の確認、必要なアイテムの移動が必要である。特に、アイテムに関しては、ファイル/ハードドライブのバックアップ、CD register, ラベル、個人の貴重品 などである。

緊急対応期、復興期それぞれに対し、スタッフへの配慮が必要になる。家族の安否確認や住居の損害に対する補償、ストレスを受ける事による休暇やカウンセリングサービスの提供。薬剤師向けの個人障害保証保険の加入やスタッフの保証体制の確認などが必要と考える。緊急時の連絡先を確保するため、コンタクトリストを用意する。(災害コーディネーター、地域保険局、PSNZ / Medsafe、コンピューターソフト会社、設備関連補修会社等)

設備管理の見直しも必要となる。特に、薬局設備自体にダメージがなくても、電気や水が寸断された。特に補助電源の確保、保冷設備の確保、緊急用トイレの確保できる設備を備蓄しておくべきである。

薬局は一次医療・二次医療も含めた地域医療の一端を担う必要がある。そのため、地域計画に薬局が含まれているかどうかの確認も必要となる。

(2) オーストラリアOTC医薬品セミナーおよびケースメソッド講習会

講師を招き、上田薬剤師会の会員薬剤師を対象にオーストラリアで行われている教育プログラムを取り入れたセミナーともに小規模のワークショップを行った。

オーストラリアのOTC医薬品販売は一連の手順として「WHAT STOP GO」プロトコルというものが用いられる。情報収集、情報処理、情報提供という一連の流れが整理されこのプロトコルに沿うことで情報を漏れる事なく収集できるようになる。また、同時にコミュニケーション理論も学び、患者さんの患者のレディネス（心構え）と協力体制を把握、患者のヘルスリテラシー（健康上の適切な判断に必要な健康に関する基本的な情報やサービスを取得、処理、理解する個人の能力）を把握し、薬剤師のコミュニケーションのあり方を変化させることすることで患者さんに効果的な情報提供を行うことができることを学んだ。

内容は、「コミュニケーション」「小児に良く見られる症状」「痛みとうつの管理」「消

化器症状」の4つのテーマについて OTC セミナーで学んだスキルを基に、小グループ内での購買者への情報収集のための質問事項に関する事、また得られた情報から提案内容に関する事についてグループディスカッションを各ケースで行い、2 グループ討論することで最適な提案が考えられた。

ロールプレイングやケースメソッドを行う事でコミュニケーションスキルや一連の OTC 医薬品供給の手順を具体的にとらえられ、状況に応じ考えられる能力も身につけることができた。

4、考察

災害時にはすばやい対応をすることにより被害を最小限に抑えることができる。薬局・地域・国家それぞれによる制度や環境設備を行っておく必要がある。

軽医療の部分でも薬局（医療提供施設）は重要な役割を果たせるため、薬剤師の軽医療（医療判断）を担う教育を行い、適切なOTC医薬品の供給、受診勧奨などの医療判断能力を付けなければいけない。

また、日頃から災害時も想定しOTC医薬品、衛生材料、衛生雑貨等の備蓄を行う必要がある。現在、上田薬剤師会では、会としての災害時の備蓄品目について検討されている。

今回の一連の研修会を受講した薬剤師は、コミュニケーション能力も磨かれ、情報収集にはじまり、情報処理、意思決定、情報提供と確実に能力を高め、適切な OTC 医薬品の供給、医療判断、受診勧奨、患者教育等幅広い軽医療の分野で地域に貢献することが期待される。

また、コミュニケーションスキルの向上により患者をはじめ、各専門職間との連携においても非常に有用で、チーム医療の推進にもつながりより質の高い医療を提供することが可能となるだろう。

今回学んだことを継続的に地域医療に還元するために、オーストラリアでも行われている模擬患者（ミステリーショッパー）による教育方法を行い、その情報はその場で薬剤師にフィードバックする事が効果的な一つの方法であると思われる。

5、まとめ

薬剤師があらゆる状況下で地域医療を担うためには、医療用医薬品、一般用医薬品を含む幅広い知識や能力が要求される。今回の事業によって軽医療の分野でOTC医薬品の供給や受診勧奨といった医療判断を行うための総合的な能力が向上した。

今回のような研修会を行う事で薬剤師がスキルを向上させ、今後もより積極的にOT
C医薬品の供給や受診勧奨など軽医療の分野でも地域医療を担っていく必要がある。